



2019年度 年主題「ことばに満たされて～ひびきあう」

**1・2歳児 5月主題 「見つけたよ」**  
 月のねがい  
 ◎さんぴかに親しむ  
 ◎あたたかい、穏やかなことばに満たされる  
 ◎園生活に慣れ、好きな遊びを見つける  
 ◎自然の中で花や虫を見つけ、保育者に伝えようとする

**3・4・5歳児 5月主題 「動く」**  
 月のねがい  
 ◎さんぴか 祈り 聖書のお話を通して 神様・イエス様を身近に感じる  
 ◎好きな場所や素材・遊具・花や虫等を見つけ、親しむ  
 ◎安心して過ごす中で、気持ちを表したり、つたえたりする  
 ◎季節に合った歌を歌ったり、保育者と童歌やふれあい遊びを楽しむ

今月の聖句

「平和をつくるものは幸いです」

マタイ福音書 5:9

**平和は他人に求めるのではなく、自分が創り、自分が平和を実感するもの**  
 平和は互いに他者と協力しなければならないことは勿論ですが、これが難しい。他者が納得して同調すればの話ですが、最終的には自分個人の決断の問題ではないでしょうか。自分がまず、平和を実践する者となる。もっと言えば、権利を主張せず、進んで損をする勇気を持つことです。自分の利益・自国の国益を優先させると平和は絶対築けません。自分が損をする、自分が傷つく、自分が死ぬ覚悟さえ定まれば、戦争は起きないでしょう。「失う者はそれを得、得ようとする者はそれを失う」のです。452年フン族がローマに侵攻したとき、時の教皇レオ1世は話し合いによって、戦わずして平和を実現しました。永生中立国スイスは軍隊を持たない国で、他国から攻撃されたことはありません。1948年南米コスタリカでは、軍隊を廃し、武器購入予算を福祉に向けました。欧米諸国と集団安全保障を結んでいますが、米軍の駐留を拒否しています。「負けるが勝ち」といわれます。  
 幼な子たちに、この真理を学んでもらいたいものです。神さまに信頼すれば心が平安になり、自分自身のうちにまず平和が築かれます。  
 牧師・前理事長 池田公榮



**5月の行事予定**

7日～17日	家庭訪問(3才以上)
9日(木)	弁当日
10日(金)	誕生会(2才以上4・5月生)
11日(土)	誕生会(0・1才4・5月生)
18日(土)	親子遠足・父母会総会
29日(水)	内科検診(0～2才児)
30日(木)	内科検診(3～5才児)

**6月の行事予定**

1日(土)	家族の日参観(3才以上)
〃	弁当日
5日(水)	弁当日
12日(木)	歯科検診(全園児)
13日(木)	給食試食会(5才児)
20日(木)	給食試食会(3・4才児)

**春の恵み ツワブキ**

種子島のあちらこちらに草花が芽吹き始め、ツワトを楽しむ季節がやってきました。我が家は、もっばらいただく方で「たくさん取れたからおすそわけね!」と、ツワやタケノコをよいただきます。  
 先日、こども園にもたくさんのツワブキが届いたので、年長児の子どもたちとツワむきに挑戦しました。  
 はじめに、先生からむき方の見本を見せてもらうと、子どもたちも思い思いにむきはじめました。  
 「うわっ! くっさ〜い!」「手が黒くなる〜」「おばあちゃんとむいたことがあるよ!」と、それぞれに感想が出てきます。  
 中には「できない〜」と言って苦戦する子、「すう〜とむけたよ。見てみて!」と、長くむけた筋をうれしそうに見せてくれる子と様々です。少しずつ要領も良くなってきて、みんなの手先が動きが活発になってきました。  
 「こうやってすると、よくむけるよ!」と教えてもらった子たちからも、自分なりに挑戦していくうちに、「すう〜! ほらできた!」とうれしそうな声が漏れました。  
 「先生、これ、はまる。まだやりたい!」と、何本も挑戦しているうちに、たくさんあったツワの束が全部なくなってしまいました。このツワむきの経験は、身体をよく使い、感覚をつかむことで、やりたい→できない→あきらめない→挑戦し続ける→わかる→できる→うれしい→自信につながっていくのだと、感じることでできた活動となりました。種子島の恵みに感謝しつつ、子どもたちの心の宝物(成功体験)がたくさん増えていくことを願っています。  
 園長

あそんであそんで人間になる

新緑の木々の薫りが園庭を包み、豊かな自然の息吹を感じさせます。今が盛り月の月見草や花々が、美しい彩りを添えて微笑んでいるようです。子どもたちの泣き声や笑い声が、包まれる空間は、生命の活力に満たされ愛しいもの。いよいよ始まる令和の時代が、すべての人にとって平安でありますよう祈ります。

新年度を迎えて、あつという間に三週間が過ぎました。玄関での泣き声も少なくなり、少しずつ自分の居場所を見つけた子どもたちです。周囲の様子を観察しつつ、一日の流れや約束事を理解し始めています。周囲の子どものことにも関心が向き、徐々に関わりも高まってきました。それに伴い、自己主張の衝突も出てくるという事になります。いつも仲良く遊んで欲しいと大人は願いますが、様々な心の葛藤や交流を経て、互いを認め合う関係になっていくのを見守ることも大切ですね。何よりも保護者の皆さんが、お子さんのありのままをしっかりと受け止めてくださる安全基地であることです。「泣いてもいいんだよ!」「いっぱいあそんでいいよ!」それが見えない根を支える大地なのです。

遊びというと、日本ではあまり良いイメージではないようです。「遊び人」「遊興」「夜遊び」等々。「遊び」を国語辞典で引くと、いくつか目に「気持ちのゆとり」と「機械の連結部分に少しゆとりがあること」とあります。子育て中の保護者や保育者にもこの「遊び」が必要ではないでしょうか。子どもへの愛情の下に、何歳だからこれができないければならない、中学生ならこうあるべしと、型に押しつけているのは如何なものか。レーシングカーのように「遊び」の少ない運転で、大人に併走されると、子どもの運転も振動(困難)が伝達されず、事故に繋がってしまうかもしれません。我々の心の余裕もこれと同じことですね。どうしても譲れない一線も必要でしょうが、厳格すぎてもあちらこちらに角が立つてしまいます。それに比べて、子どもたちの「あそび」には、まさに本能的・天才的な間(余裕)が存在しているようです。集団の中で生まれる絶妙な距離感と自己主張のバランスがまさに子どもの真骨頂です。乳幼児期は様々な能力が個別に発達していくのではなく、相互に関連し合い、総合的に発達していくのです。何よりもあそびの経験が大切ですね。『遊びをせむとや生まれけむ』子どもに習い、私たちがほどよい「あそび」を持って子どもたちに接していきたいものです。

子どもによっては、そろそろ疲れが出始める頃です。連休を家族で楽しめながら、どうぞ十分な休養もお願いしたいと思います。梅雨時を元気に乗り越えるためにも、毎日の変化に反応した対応や食事・睡眠に留意し、保護者の皆様の協力をお願いいたします。

学園長

**運動 心と体の育ち**

幼児期の運動遊びは、身体を動かすこと自体が楽しみであり、その結果として、「体格の向上や運動機能の発達」など、身体的発達に役立つといわれています。幼児期から低学年までのこの時期を『プレ・ゴールデンエイジ』と呼び、脳や体内のさまざまな神経回路が次々と張り巡らされるのだと言われます。近年、脳科学や幼児教育の研究の中で、子どもたちにとって運動遊びは、脳を刺激するばかりではなく、感情をコントロールする部位までも活性化することが明らかにされています。

『プレ・ゴールデンエイジ』のこの時期に、たっぷりと、しかも楽しく運動遊びを行うことは、「生きる力」を支える「健やかな体」「豊かな心」を育てていくうえで、大切な基盤になるものと云えます。また、乳幼児期における家庭での教育は、人間形成に大きな影響を与えます。親子で肌の触れ合いを行うことにより、気持ちを通じ合います。さらに、子どもの意欲活動を高め、乳幼児期の心身の発達に好ましい影響を与えられたいです。

“運動=スポーツ”ではありません。日常生活の中での動きがすべて運動です。子どもの手をとり、歩くこと、タッチすること、抱きしめることなど・・・

「ちょっと待ってて!」「今はだめ!」という前に、子どもと一緒にできることから始めてみましょう。  
 江口征児



まじすこどもえん まじすこどもえん まじすこどもえん まじすこどもえん まじすこどもえん まじすこどもえん まじすこどもえん まじすこどもえん まじすこどもえん まじすこどもえん

まじすこどもえん まじすこどもえん まじすこどもえん まじすこどもえん まじすこどもえん まじすこどもえん まじすこどもえん まじすこどもえん まじすこどもえん まじすこどもえん